



むらおか・れいな 1993年生まれ。2012年、京都府亀岡市で登校中の小学生ら10人が死傷した事故でいとこの松村幸姫さんを亡くし、21年に交通事故撲滅を目指す団体「route」（福岡県大野城市）を立ち上げ、翌年NPO法人化。「通学路戦士パトローラ」に扮し活動する。

ハンドルの重みは命の重み 交通事故・飲酒運転 ゼロを訴え続ける

公益財団法人 交通遺児育英会は設立から57年にわたり、保護者が交通事故に遭ったために、経済的に修学が困難になった子どもたちを支援してきた。同会は飲酒運転撲滅を目指す「TEAM ZERO FUKUOKA（チームゼロフクオカ）」の一員でもある。海の中道大橋（福岡市東区）の飲酒運転事故から20年の今年、会長の石橋健一氏と、交通事故でいとこを亡くしたことをきっかけにNPO法人を立ち上げた村岡麗菜氏が交通事故と飲酒運転の撲滅、交通遺児支援への思いを語り合った。（本文は敬称略）

NPO法人 route 理事長

村岡 麗菜 氏

公益財団法人 交通遺児育英会 会長

石橋 健一 氏

福岡のみんなの力で、
飲酒運転ゼロへ。



いしばし・けんいち 1942年生まれ。北海道大工学部卒業後、日新製鋼（現日本製鉄）入社。呉製鉄所エネルギー技術課、本社人事部などを経て、96年交通遺児育英会出向。事務局長、専務理事、理事長を歴任し2023年6月から現職。

遺児と向き合い57年
5万人超に「奨学金」

— 交通遺児育英会の設立について聞かせてください。

石橋 設立は1969年の5月2日。当時、高度経済成長に伴って交通事故が急増し、年間1万6千人超の方が亡くなっていました。67年ごろから全国各地に「交通遺児の母親たち」の「わが子にせめて高校進学を」との願いが68年末の国会決議につながり、それから半年もたため翌年5月に設立されたのです。

村岡 遺児一人一人と向き合う重要な取り組みを半世紀にわたって続けてこられたんですね。尊敬の言葉に尽きます。

— 奨学金をはじめ、さまざまな支援を拡充しています。

石橋 57年間で約5万8千人の交通遺児に奨学金で支援してきました。総額は約589億円に上ります。高校、大学、専門学校、大学院まで支援対象を広げ、大学・短大生は2020年から月2万円、高校生は23年から月1万円を返還不要で給付しています。家賃補助などの給付型の修学支援金制度もありです。子どもや保護者の声を受け、この支援制度もその都度見直してきました。25年には進学受験費用給付を上限10万円に引き上げ、運転免許取得費用も上限30万円に拡充しました。資格・検定取得費用補助では、外国語検定も英検にさらに7言語を加え、簿記や宅地建物取引士等の84種類の資格試験の受験費用給付を開始しました。

関東と関西地区で学生寮「心塾」も運営しています。寮費は朝夕2食付きで月1万円です。また、高校奨学生や保護者が語り合う場所「つどい」や保護者同士で語り合う場「語らいカフェ」も設けています。これは悩みなどを共有し互いに癒やされ、勇気づけられる場です。私たちの事業改善のヒントを頂く場にもなっています。

村岡 遺族は「どこまで一人で抱え込まなければいけないのか」「どう事故と向き合っていけばいいのかわからない」「我慢して当たり前」「二人で向き合えなければ」と思ってしまう現状があります。そのような懇談の場があるのは遺族にとって本当に貴重です。

石橋 無料出張講演もしています。昨年は年間46回各地に出向きました。運送やタクシー会社、高

校などからも依頼を頂きます。交通安全意識の向上につながるのだから、さらに多くの人にメッセージを届けていきたいです。



奨学生や保護者が悩みなどを語り合う場を設けている

ポジティブな見守り
「安全な通学路へ」

— いとこを亡くした事故を経て村岡さんが始めた活動は。

村岡 事故から時間がたつにつれて世間の関心が薄れ、過去のこととして受け止めるようになっていきました。自分ひとりで繰り返すこと、自分の子どもが小学校入学を目前に控えた時「通学路が安全でない。安心して子どもを送り出すことができない」と感じました。何かアクションを起こさなければと交通事故撲滅を目指す「route」を設立。マヒロー「通学路戦士パトローラ」を始めました。交通安全に関心を持ってもらうためにポジティブな活動がしたかったのです。講演、交通指導員として通学路の見守り、小学校での交通安全啓発、交通安全啓発イベントなどに出向いています。

表に出るのは苦手で、中傷されることもありましたが、亡くなったことと同じ悲しみを繰り返さないためという一心で続けてきました。今後も自分の子育てと両立して

きる範囲で続けていきたいと考えています。

石橋 村岡さんの活動に触れた皆さんは、運転に伴う危険性と責任の重さに改めて気づき、自分の運転を見直すことにつながると思っています。

— 今後の課題はどのような点だと考えますか。

石橋 奨学生が社会に出て苦勞することのないように返還不要の給付を広げていきたいです。現在、保護者からの要望を聞き、できる限りの支援拡大を検討しています。

村岡 事故後間もなく遺族として署名活動をした時、涙ながらに「父を亡くしたから」と協力してくださった若い女性がおられました。事故の話は友人に話すのもなかなか難しいものです。一人で抱え込まなくていいように、社会の支援がもっと行き渡るようにしなければならぬと感じています。

石橋 当事者の意見を聞く機会を増やしながら、支援制度の改革、改善を続けていくのが大切だと考えています。

飲酒運転はなくせる
「初心忘るべからず」

— 飲酒運転撲滅のために日頃からできることは。

村岡 飲酒運転は“人間が生み出す危険”です。飲んで運転する人がいなければ今日にでもなくせる事故という認識をみんなが持たなければいけないと考えています。「酔っている、酔っていない」は自分で判断することではありません。「飲んだら乗るな」を訴え続けていきます。

石橋 遺児の母親が講演で語った「ハンドルの重みは命の重み」。そして運転時は「初心忘るべからず」。この二つの心構えを常に持つてハンドルを握ってほしいと思います。



交通安全への願いを込め、ポーズを決める石橋健一氏（左）と「通学路戦士パトローラ」の村岡麗菜氏



公益社団法人
福岡県交通遺児を支える会
会長 長 裕海 氏

公益社団法人福岡県交通遺児を支える会は、交通事故で家族を失った子どもたちの成長を支えるため、1967年の発足以来、奨学金支給や入学・卒業祝い、交流レクリエーション、遺家族懇談会など多様な支援を続けています。県内自治体や企業・団体と連携し、子どもたちが安心して未来へ進める環境づくりに取り組んでいます。飲酒運転撲滅の願いとともに、事故の悲しみを繰り返さない社会を目指します。

悲しみを繰り返さない
思いを一つに
取り組む

NPO法人
route

統括 村岡 智明 氏



2012年4月23日に京都府亀岡市で起こった無免許暴走事故の犠牲となった妊婦の遺族として、無免許運転に対する法改正や啓発活動に取り組みしました。その後、NPO法人routeを設立。現在は地域や行政と連携し、講演やヒーローによる交通安全教室などを、子どもから大人まで幅広い世代を対象に実施しています。無質運転の根絶、交通事故ゼロを目指し活動中です。

公益社団法人 福岡県交通遺児を支える会



NPO法人 route



交通事故ゼロ、飲酒運転ゼロを目指して、無料出張講演を行っています。

交通遺児や保護者の方の体験を視聴いただくことは、交通安全の大切さを実感する絶好の機会となります。ぜひ、お問い合わせください。

交通遺児育英会は、50年以上にわたり、保護者が交通事故で亡くなったり、重度の後遺障がいのため、経済的に修学が困難になった子どもたちに、高校や大学・専門学校などへの進学を支援し続けています。修学を終えると、社会に役立つ人材として羽ばたいていきます。私たちの活動は大きく⑤つの事業で成り立っています。

- ① 奨学金の無利子貸与（一部給付）
- ② 奨学生の指導および育成と交流
- ③ 学生寮「心塾®（こころじゅく）」の運営
- ④ 修学支援金の給付
- ⑤ 交通安全推進運動への協賛・協力、無料出張講演等



私は進学の夢をあきらめない
公益財団法人 交通遺児育英会

募金課 ☎ 0120-521285 （平日9:00～17:30）
〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-1 平河町ビル3階

交通遺児育英会

検索

bokinka@kotsuiji.com

